

令和元年 12 月 11 日 (水)

『主体的・対話的で深い学び』の授業実践を振り返って

〇〇〇〇高等学校

〇〇 〇〇

○公開授業の要点

単元 書道Ⅱ 漢字仮名交じり書 ～連歌 思いをコトバに、そして表現へ～
2年1組・2組 合計30名 光村図書『書Ⅱ』

本時の内容 作品批評会(グループ)を通して、根拠をもって批評し合い、
互いの作品や意見を生かして、自身の作品課題を明確にする

授業のポイント グループで作品を鑑賞する →
※批評の観点に沿う

下の句の表現

情景やイメージを伝える古典の特徴と効用
構成の表現

・互いの作品を観点に沿って鑑賞し、根拠をもって批評し合う

※それぞれが書くときに注意したことや、上手くいったこと、自分のうま
くいかなかった反省をもとに、相手の作品をみてる

※古典の効用については、全員で共通理解をして、分類している

・次の時間に仕上げるために、現段階の作品の課題点を明確にする

○書道の単元を通してどんな力をつけさせるか

学校経営ビジョン

「他人を敬い多様な人々との連帯を果たし、自ら考え自ら行動し新たな価値を創造できる人」

漢字仮名交じりの書 単元を通して身につけさせたい力

豊かな感性と創造性を育み、自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識や
アイデアを共有し表現を生み出す力を育みたい。

○書道の先生方への課題提起

〈鑑賞について〉

生徒が互いの作品について指摘やアドバイスなどの批評ができるように、どのように配慮
するか。また、教師側がどのようにして、考えるきっかけを作るか。

○授業実践を振り返って

公開授業の研究協議において、研究協議や出た意見やその後考えたこと

意見

- ▼どのくらい内容が理解できているかを振返らせる(確認)
- ▼評価の基準について(どう評価するのか)
- ▼完成までの途中段階の発表はいいと思うが、時間数との兼ね合いがとれない
- ▼鑑賞の視点多い、互いを認めるといい点ではいい
- ▼もっと作品について語り合う工夫が必要
- ▼観点の内容が難しい
- 作品やお互いについて、自分の作品について考えさせる内容
- 文芸との関連は文化が理解できていい教材
- 楽しそうに取り組んでいる様子だった
- 積極的に意見交換ができていた
- △対話の内容に深みをもたせるために、専門用語をわかりやすく説明する必要がある
- △着眼点や最終目標をより具体化するといい

その後考えたこと

- ・古典の特徴が理解できているか確認し、古典や表現を理解するための探究的な授業を行うと作品を見る力が養われるのではないか。
- ・批判的な意見は出てこないことが多いため、次のステップにつなげるための手立てを見つける方法や、意見や気づきの重要性を教える必要がある。生徒が他人の作品をどう評価したらいいのか。
- ・教師側が見るべき道筋を立てて誘導する、気づかせるということが必要である。
- ・書体や古典について深める授業(鑑賞の授業)を通して、作品の見かたや面白さ、表現の多様性を考えさせることが、鑑賞や批評会の授業では大切であるし、生徒が生涯を通して芸術に関わったり興味関心をもったりすることにつながる。

- ・教師と生徒、また生徒同士の対話を持つ重要性を感じた。
- ・教師側の学習評価の仕方について、工夫が必要である。どこをみるのか、過程を大切に、言葉を表記させるなどの評価の材料を考えるべき。
- ・カリキュラムマネジメントと評価について考え、PDCAサイクルを生かしながら教育活動の質の向上を図ることが大切である。計画的業務の遂行をしていかなければならない。
- ・共通事項の改訂の重要性を理解することを、県内の書道教諭の方々と共有して、今後も授業の質や教師としての資質というものを考えていきたい。